

市民参加推進会議ワーキンググループ要点記録

会の名称	市民参加推進会議ワーキンググループ（第1回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成26年5月16日（金）午後4時00分～午後5時12分		
開催場所	前原暫定集会施設2階 B会議室		
出席者	委員長	西尾 隆	委員
	副委員長	浅野 智彦	委員
	委員	赤羽 里家	委員
		杉本 早苗	委員
		川口 亜子	委員
		田中 留美子	委員
		古畑 昭郎	委員
		福井 高雄	委員
		五島 宏	委員
		河野 律子	委員
欠席者	委員	坂爪 智子	委員
		川合 修	委員
ヒアリング招待者	特定非営利活動法人ひ・ろ・こらぼ 堀井 廣子 氏		
事務局	企画政策課長補佐	中田 陽介	
	企画政策課主任	工藤 真矢	
	企画政策課副主査	津田 理恵	

【ワーキンググループ結果】

1 わんぱく夏まつりの概要

- ・1975年に開始し、今年40回目となる。8月末10日間にわたり、武蔵野公園で市民有志や子どもたちが遊具や小屋を作り、さまざまな遊び・活動を行う。やぐらを作り、そこに一晚泊って、最後の日に壊すことがメインイベントである。誰が来てもいい。毎日来てもいいし、1日だけ来てもいい場所で、楽しく遊ぶことを基本としている。
- ・市の児童館が実施する「わんぱく団」事業と現在はこがねい子ども遊パークのプレイパークも同時開催している。
- ・設立時は青年会議所がメインに関わっており、規模が大きかった。
- ・以前、前原町二丁目町会から実行委員を出していたこともある。
- ・現在はやりたい人が実行委員になる方式にしている。
- ・大学、大学生や地域の小学校が関わっていたこともある。
- ・参加者が自由にやりたいことをやる場であり、野外での社会教育の場所と考えている。参加団体が持ち込み企画を実施することもある。
- ・実行委員長は毎年異なる人が務める。20歳位の人が就任し、年上のスタッフがサポートすることも多い。これは事業が継続してきた一つの要因でもあると思う。
- ・けがやごみの処理は各自の責任としている。
- ・最近の実行委員の人数は10人弱で、様々な年齢層の委員がいる。
- ・チラシを小学校の児童全員に配布している。以前は中学校にも配布したり、掲示したりしていたが、現在はしていない。

- ・市も関わっており、一つの協働のかたちになっていると思う。市との関わり方は年々変化してきており、今は業務協力となっている。市の窓口は児童青少年課。北多摩南部建設事務所、東京都西部公園緑地事務所の協力も得ている。
- ・高校などにいけない子やドロップアウトしがちな子どもがわんぱく夏まつりの開催期間中に、周囲に馴染み、変化していくこともあり、そのような力のある場所でもある。

2 活動していく上で困っていること、苦労していること

- ・土日に設営をし、次の土日に本まつり（メインイベント）を行う。設営には大人が関わるが、平日は仕事があるため、どうしても日程が限られる。
- ・人手や運営側の人材を集めるのに苦労している。
- ・設営には重機も使っている。重機の取扱いについて、安全を確保することも課題の1つである。
- ・次の世代につなげられていない。
- ・小学生やボランティアの中学生・高校生は塾や部活等で、一週間の日程を確保するのが難しい。また、8月31日までに終了させなければならないため、開始がお盆にかかってしまうこともある（メリットデメリット両方ある）。
- ・無料でキャンプができると思って来る人もいるが、場所を設定している人に対する配慮がないと感じる。

3 今後力を入れていきたいこと

- ・まつりの形を変えることも検討している。山、原っぱ、川を生かした場所であることは存続したい。
- ・わんぱく夏まつりをテーマに卒論を書く参加者もいた。そのような役割を果たすフィールドでもある。

4 行政との関わりについて

- ・東京都が原っぱに洪水対策の調節池を作るという話があり（1987年ごろ）、わんぱく夏まつり実行委員会も原っぱ保全運動に関わった。調節池以外にも水害を防ぐ方法はあるのではないかと思う。原っぱ（武蔵野公園くじら山下原っぱ）の存続やわんぱくの活動は、子育て、社会貢献、市民参加等、お金の換算できない役割を担っていることを、どこまで大切にできるかが重要である。
- ・最近では、規制が厳しくなり、現在は直接地面で火を起して煮炊きすることやキャンプファイヤーもできない。
- ・市との協力関係がうまくいかないときには、その時その時に話し合ったりしてきて、最近市との関係は落ち着いてきた。
- ・市が「わんぱく団」の活動と一緒に公園・河川敷の使用許可を申請している。市が東京都に申請に行くときには、実行委員会も一緒に行く。

5 質疑応答、意見等

・国際基督教大学や東京農工大学が付近にあるが、大学生とのつながりはいかがか。

→以前は子ども関係のサークルに働きかけていた。最近は大学の受付にチラシを渡している。実際に学生自体にはつながっていないと感じている。

・NPOの概略は。(NPO法人 ひ・ろ・こらぼ)

→今年12年目となる。NPO法が施行され、若い人から地域でまちづくりに参加したい、という声が出てきた時期に、若い人の活動の受け皿にもなる、まちづくりを行うNPO法人を立ち上げた。まちと人をつなぎ、人づくり・まちづくりをする、まちづくり総合コーディネーターを目標にしている。最も力を入れたのは、まちづくりコーディネーター養成講座である。まちづくりに直接関わる実践的な講座を数年間行っていた。

・他にこのようなイベントはあるか。

→聞かないが、NPO法人こがねい子ども遊パークがプレーパーク(子どもたちが自分で遊びを作り出し自由に遊べる場)を市内3箇所で開催している。

・2年前に子ども会に参加したが、地域の方と関わる機会がなく、残念に思っていた。このようなイベントはいろいろな世代が関わるので、参加したいという子ども会があると思う。子ども会とうまくつながるとよい。子どもたちにとっては仲間ができたり、他の世代と交流できる貴重な体験だと思う。

・中学生、高校生になるとやりたいことが増えてくるため、小学生のうちにつかまえておくのはよいアイデアである。

・参加者にはいろいろな世代がおり、参加者同士の交流が生まれ、つながりができるところがよい。

・このイベントが報道されることはあるか。

→小金井市でもいろいろなところで紹介している。また、神戸のほうなど遠くからも視察が来ることもある。こちらからも報道機関には、積極的にアプローチしている。

・市民参加条例を策定した時の経過を踏まえ、今の状況はいかがか。

→市民が日常的に集まって滞在する場の設置を条例に入れたが、まだ進んでいない。市民協働のあり方等検討委員会の答申にも入れた。平成21年に設置された市民協働支援センター準備室が現在も準備室のままである。市と市民がお互いに歩みよって、何かができる拠点が必

要だと思っている。また、そこを拠点にしながら、どのようにしたら市と市民の協働が進むのかを探り、少しずつでも前に進められるとよい。